

五期俳句会 第七十二回 十二月一日

久し振りに五名揃う、お仕事で無理な今井さんは別として、後輩の奥様二名と蔵本さんも入れて忘年会を兼ねて下の食事処でお昼を食べる。いつもより早く部屋へ入れたので習字の奥様方から提出する分の選択と添削を済ませる。あとは今井さんの来るまでおしゃべり。

踏む落葉蹴り上げてみる散歩道

今井由紀子

小雨ふる舗道枯葉のふきだまり

塩田亘子

冬雲の動かぬままに形変へ

松浦武子

川風にちりゆく落葉有馬山

久貝貞子

友病みて酸素ボンベと冬に入る

今井由紀子

ガミ声の鴉一鳴き冬立ぬ

浅香さとみ

東福寺もゆる紅葉もみじに浮かぶ橋

塩田亘子

荒れ古墳ひととき飾る蔦紅葉

今井由紀子

参道の両側飾る石路つわの花

松浦武子

声しやうみやう明や永観堂の紅葉がり

久貝貞子

千体の観音菩薩堂寒し

塩田亘子

庭落葉鳥たち遊ぶ音のして

今井由紀子

蓮華院長き御堂に秋陽さす

塩田豆子

凧一号吹いてそれっきりの寒気

浅香さとみ

ひっじだ  
穠田のつづく山村備中路

松浦武子

行く秋やぬか床かえす旅のあと

久貝貞子

駅ホーム友と別れて夕時雨

今井由紀子

秋日和にわか舞妓や二寧坂

塩田豆子

好日に神在月の出雲行く

松浦武子

穠田というのは多分辞典に乗っていないと思います。歳時記にはあるので  
すが、稲刈りをした後の切り株だけの田んぼ後です、昔は落穂拾いをした  
ものです。列車からの眺めです。